

十七 べつの道

私たちは、いまや分かれ道にいる。だが、ロバート・フロストの有名な詩とは違って、どちらの道を選ぶべきか、いまさら迷うでもない。長いあいだ旅してきた道は、すばらしい高速道路で、すごいスピードに酔うこともできるが、私たちはだまされているのだ。その行きつく先は、禍いであり破滅だ。もう一つの道は、あまり《人も行かない》が、この分かれ道を行きつくときにこそ、私たちの住んでいるこの地球の安全を守れる、最後の、唯一のチャンスがあるといえよう。

とにかく、どちらの道をとるか、きめなければならぬのは私たちなのだ。長いあいだ我慢したあげく、とにかく《知る権利》が私たちにもあることを認めさせ、人類が意味のないおそるべき危険にのりだしていることがわかったからには、一刻もぐずぐずすべきではない。毒のある化学薬品をいたるところまかなければならない、などという人たちの言葉に耳をかしてはいけない。目を見開き、どういふべつの道があるのか、をさがさなければならぬ。

化学薬品による防除にかわるほかの方法は、実にいろいろある。ある種のもの、すでに実際に応用されてすばらしい効果をあげ、また、現在はまだ実験室でのテストの段階にあるものもある。また、まだ化学者たちのアイデアにすぎず、試験されるのを待っているものもある。とまれ、これはどれもこれも生物学的な解決を目指している。まず、コントロールしようとする相手の生物をよく理解し、こうした生物をつつむ生の社会全体を明らかにする。生物学という、ひろい分野の各領域で活躍する専門家―昆虫学者、病理学者、遺伝学者、生理学者、生化学者、生態学者が、それぞれの研究成果や、創意豊かな考えを出しあい、力を合わせて、生物学的防除という新しい学問をうち立てようとしている。